

殺虫剤

メタフルミゾン粒剤

アクセル[®]ベイト

農林水産省登録 第 22875 号

性状：淡褐色粒状

毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

有効年限：5年

包装：2kg × 8

有効成分：メタフルミゾン・・・・・・・・・・0.20%

アクセル[®]ベイトは日本農薬(株)の登録商標です。

特長

- 本剤は害虫を誘引し、有効成分を摂食させて殺虫するベイト剤です。
- 株元散布で簡単にネキリムシ類、コオロギ類、ハスモンヨトウを防除できます。
- 有効成分であるメタフルミゾンは、害虫への経口作用が強く、ベイト剤に適しています。
- チョウ目害虫のネキリムシ類やハスモンヨトウ以外に、コオロギ類にも効果を示しますので、これらの害虫の同時防除が可能です。

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用病害虫名	10アール当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む 農業の総使用回数	
キャベツ はくさい	ネキリムシ類 ハスモンヨトウ コオロギ類	3～6kg	収穫7日前 まで	3回以内	株元散布	3回以内	
だいこん	ネキリムシ類						
ブロッコリー	ネキリムシ類 コオロギ類		2回以内			2回以内	
非結球レタス	ネキリムシ類			収穫前日 まで		3回以内	3回以内
レタス						2回以内	2回以内
ねぎ							
しょうが							
アスパラガス いちご	ハスモンヨトウ						
にんじん	ネキリムシ類 ハスモンヨトウ	6kg		3回以内			3回以内
	コオロギ類						
ごぼう だいず えだまめ	ネキリムシ類	3～6kg					
花き類・観葉植物							生育期

使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態および害虫の発生状況に合わせて調節してください。
- 本剤が作物体にかからないよう株元の土壌表面に散布してください。
- ハスモンヨウトウの防除に使用する場合は、地表部に生息する幼虫に対し有効であるので時期を失しないように使用してください。
- ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

サンケイ ベイトシリーズ 技術情報

SANKEI Bait Series Technical Intelligence

サンケイベイトシリーズによる害虫防除の目安

害虫の種類	発生時期 (月)											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ネキリムシ類				●				●				
コオロギ類							●					
ダンゴムシ類	●											
ナメクジ類		●										

害虫の種類	ガードベイトA	デナポン5%ベイト	アクセルベイト	ナメクリン3	加害を受ける作物ステージ	多発する要因と注意点
ネキリムシ類	○	○	○		発芽苗・定植苗	前作物に注意
コオロギ類		○	○		幼苗	敷きわら注意 乾燥年注意
ダンゴムシ類		○			幼苗	有機質の多投入注意
ナメクジ類				○	全ステージ	有機質の多投入注意 高湿度注意

ベイト剤の上手な使い方

残効は、降雨条件のない場合7～10日程度、降雨があった場合は7日以内です。降雨の強さにもよりますが、粒が完全に壊れてしまうと効果がなくなりますので、降雨が予想される場合は降雨後にご使用下さい。

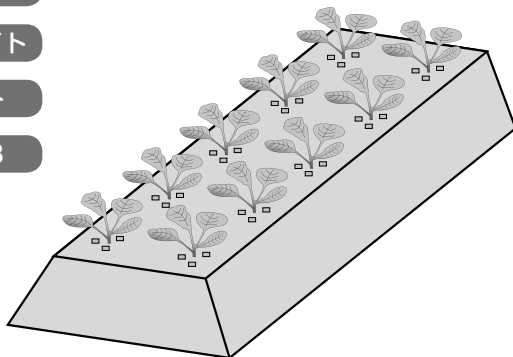
ベイト剤は土壌表面処理により効果を発揮しますので、**混和処理をしないでください。**

ガードベイトA

デナポン5%ベイト

アクセルベイト

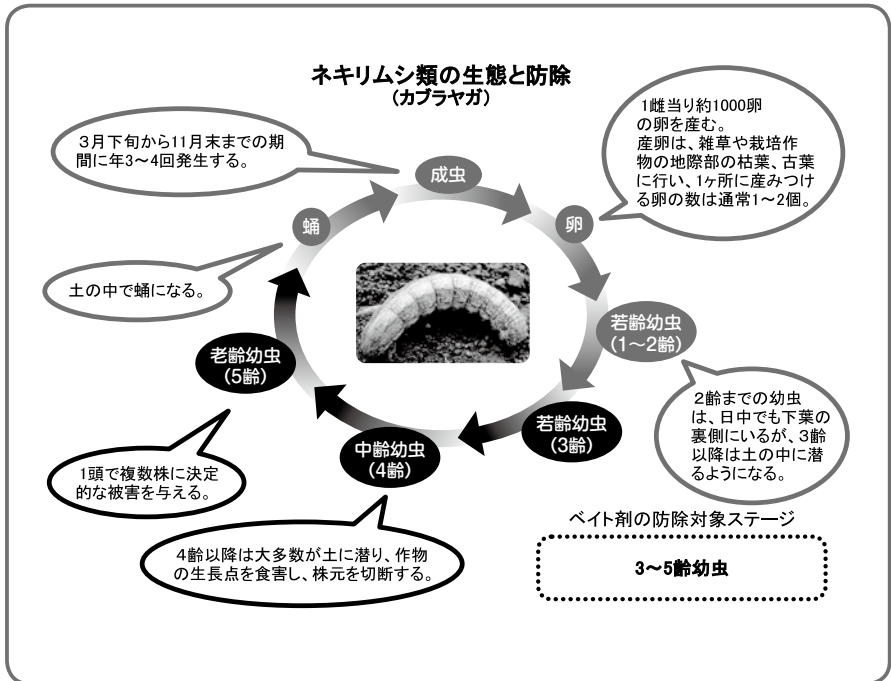
ナメクリン3



混和せずに、土壌表面の作物の株元に散布しましょう。

ネキリムシ類（カブラヤガ、タマナヤガ幼虫）

生態



被害

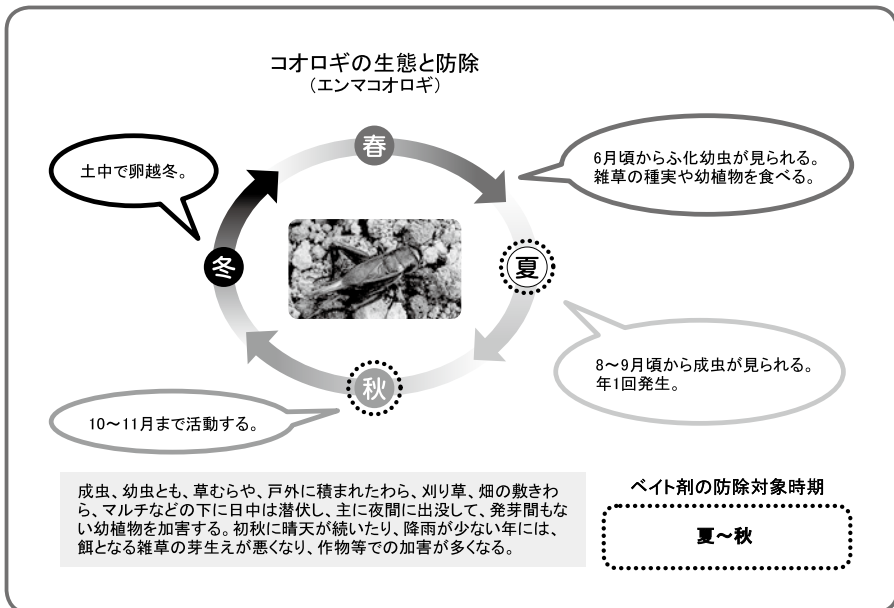
- 若齢（1～3齢）幼虫は主に植物の葉を食害しますが、食べる量が少ないことや、株あたりの虫数が少ないことが理由で被害はさほど問題になりません。しかし、4齢幼虫以降は、作物の生長点を食害したり、株元を切断したりするので大きな被害になります。したがって、作物の定植時期、発芽時期が中齢幼虫～老齢幼虫期に重なる時期の被害が問題となり、早春から初夏、秋に定植・種される野菜では、大きな被害につながります。
- 中齢幼虫～老齢幼虫は、片寄りがあるものの圃場全体に分布し、1頭で複数株に決定的な被害を与え、特に休耕地や前作が野菜であった所に被害が出やすい傾向にあります。

防除時期と薬剤

- は種作物では、は種後～発芽直後、定植する場合は定植時にガードベイトA、デナボン5%ベイト又はアクセルベイトを処理します。
- 使用する作物や使用量・方法については、各薬剤の登録内容を遵守してお使いください。

コオロギ類

生態



被害

- 夏から秋にかけて、は種する野菜の発芽苗や幼苗が根際から食いちぎられ枯死します。降雨の少ない年は、幼虫時期の死亡率が低くなるので被害が現れやすく、また敷きわらを用いた栽培の野菜の後作、雑草地を耕した直後の圃場で被害が大きくなります。
- 圃場周囲の土手などに巣穴をあけ、そこを拠点に出入し、圃場内に移動して加害します。は種直後の敷きわら(盛夏の頃には種する野菜では、は種後の乾燥防止に敷きわらを施すことが多い)は絶好の住家を与えることとなります。

防除時期と薬剤

- は種時~発芽直後にデナボン5%バイトを処理します。
- アクセルバイトは収穫7日前まで(キャベツ、はくさいの場合)に処理してください。
- 使用する作物や使用量・方法については、各薬剤の登録内容を遵守してお使いください。